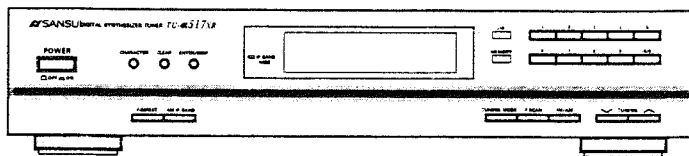


SANSUI

デジタルシンセサイザー・チューナー

TU-517XR

取扱説明書



このたびはサンスイ製品をお買い求めいただき
誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をお読みい
ただき本機の性能、機能を十分に発揮させて、
末永くご愛用くださいますようお願い申し上げ
ます。

も く じ

仕様	2
安全にご使用いただくために	3
接続について	4～5
各部の名称と説明	6～7
ディスプレイ	7
操作	8～10
本機のお手入れ/サービスの依頼	11

※説明の便宜上、イラストは原形と異なることがあります。

アフターサービスについて

保証書：この製品には保証書が添付されています。
「お買上店の捺印、購入年月日」などの記入及び記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
所定事項が記入されていない場合や紛失した場合は保証期間中でも保証が無効となる場合があります。
保証期間：この製品はお買上の日から1年間です。
正常な使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合は、保証書に記載されている内容に基づき、修理いたします。
保証期間経過後の修理：当社消費者相談窓口またはお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
この製品の補修用性能部品*1の最低保有期間は、製造打ち切り後8年*2です。
*1：補修用性能部品とは、この製品の機能を維持するために必要な部品です。
*2：この期間は、通商産業省の指導によるものです。

この取り扱い説明書は保証書、サービスネットワークと一緒に大切に保存してください。万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたときにお役にたちます。

仕様

FM部

受信周波数	76.0～90.0 MHz
実用感度	10.8 dBf
50 dBクワイエティング感度 (IHF)	
ステレオ	36.0 dBf
モノラル	14.0 dBf
S/N比 (8.5 dBf)	
ステレオ	74 dB以上
モノラル	80 dB以上
周波数特性 (ステレオ)	30～15,000 Hz
	+0.3dB-0.8dB
歪率 (6.5 dBf)	
ステレオ (1 kHz)	0.2%以下
モノラル (1 kHz)	0.15%以下
キャプチャレシオ (IHF)	1.0 dB以下
次隣接局選択度	60 dB以上
スプリアスレスポンス比 (IHF)	
	75 dB以上
イメージレスポンス比 (IHF)	45 dB以上
IFレスポンス比 (IHF)	80 dB以上
AM抑圧比 (IHF)	60 dB以上
ステレオセパレーション	
1 kHz	45 dB以上
アンテナインピーダンス	75 Ω

AM部

受信周波数	531～1,629 kHz
実用感度 (IHF, ループアンテナ)	
	50 dB/m
ステレオセパレーション	30 dB以上 (999 kHz)
S/N比	50 dB以上
歪率 (30%変調, 8.5 dB/m)	
	0.7%以下
イメージレスポンス比 (IHF)	40 dB以上 (999 kHz)
IFレスポンス比 (IHF)	40 dB以上 (999 kHz)

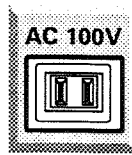
その他

出力電圧	
FM 100%変調時	0.6 V
電源電圧	AC 100V, 50 Hz / 60Hz
定格消費電力	6 W (電気用品取締法)
外形寸法	430X78X266
	(幅X高さX奥行き)
重量	2.8 kg (本体のみ)

付属品

AMループアンテナ	1
FMT字型アンテナ	1
アンテナプラグ	1
ピンプラグコード	1
ミニプラグコード	1

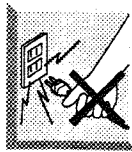
* 本機の意匠および仕様の一部は、改良のため予告なく変更することがあります。



本機は交流 (AC) 100V 専用です

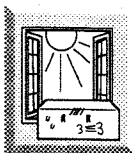
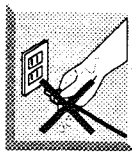
電源プラグをコンセントに接続するときは、次の点にご注意ください。誤った接続をすると故障や火災の原因になる恐れがあり大変危険です。

- この製品は日本国内用につくられていますので、海外のAC電源ではご使用になれません。
- クーラーなどの200V電源には接続しないでください。
- 船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。



電源プラグを抜き差しするときのご注意

- 電源プラグをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。コードを持って抜くと断線やショートの原因となり、大変危険です。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差しすると、感電することがありますので絶対におやめください。
- 電源コードを傷つけたり電源コードの上に重いものを乗せたりすると感電や火災の原因となり、大変危険です。



次のような場所には置かないでください

性能の劣化や故障の原因になります。

- 暖房器具などの発熱物の近く。
- 窓際など直射日光や雨の当たる場所。
- 風通しが悪く、湿気やほこりの多い場所。
- 振動や傾斜のある不安定な場所。



音のエチケット

音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には気を配りましょう。



ケースや底板は絶対にはずさないでください

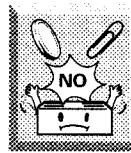
本機の内部には高電圧がかかっているところがあります。内部の点検や調整をすると、故障や感電事故の原因になりますので内部に触れることは絶対にしないでください。また、内部を改造した場合の故障や性能の劣化については当社では保証いたしません。



長期間ご使用にならないときは

長期間ご使用にならないときは、安全のため本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。接続したままにしておくと、思わぬ事故につながる恐れがあります。

次のような場合はすぐに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上になった販売店または最寄りの当社サービス窓口(サービスネットワーク参照)にご連絡ください



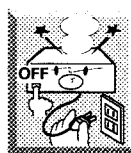
内部に異物が入ったとき

内部にヘアピンや硬貨などの異物を入れた場合、そのまま使用すると故障を起こしたり火災や感電の原因になる恐れがあり、大変危険です。特にお子様にはご注意ください。内部に異物が入った場合はすぐに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上になった販売店または最寄りの当社サービス窓口(サービスネットワーク参照)にご連絡ください。



水が入ったとき

内部に水が入ると故障を起こしたり火災や感電の原因になる恐れがあり、大変危険です。内部に水が入った場合は本体に触れないよう注意しながら、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上になった販売店または最寄りの当社サービス窓口(サービスネットワーク参照)にご連絡ください。

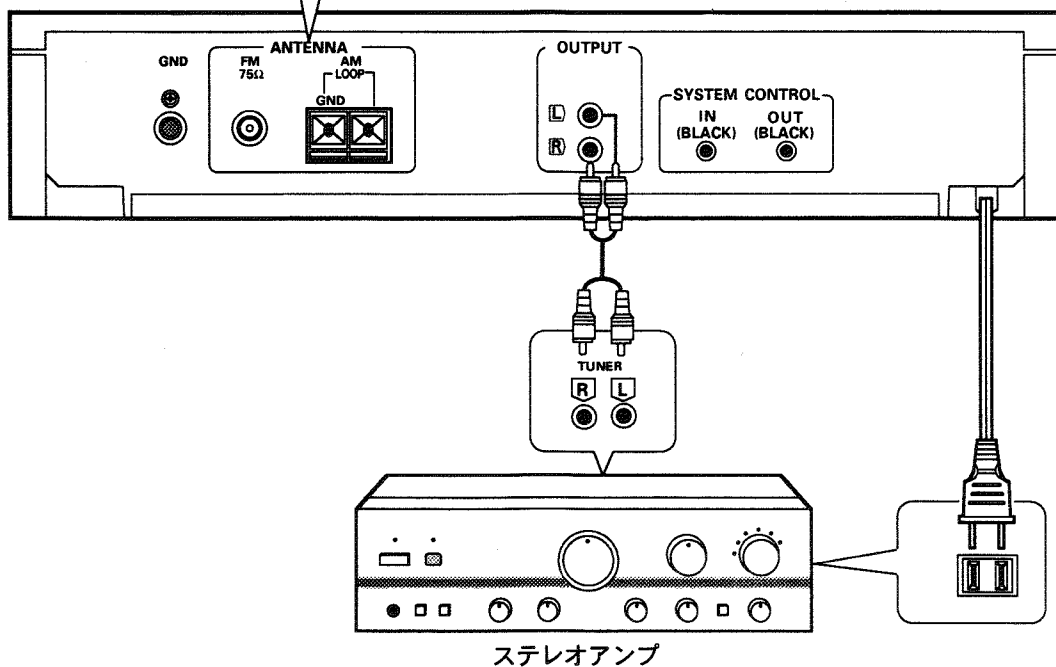
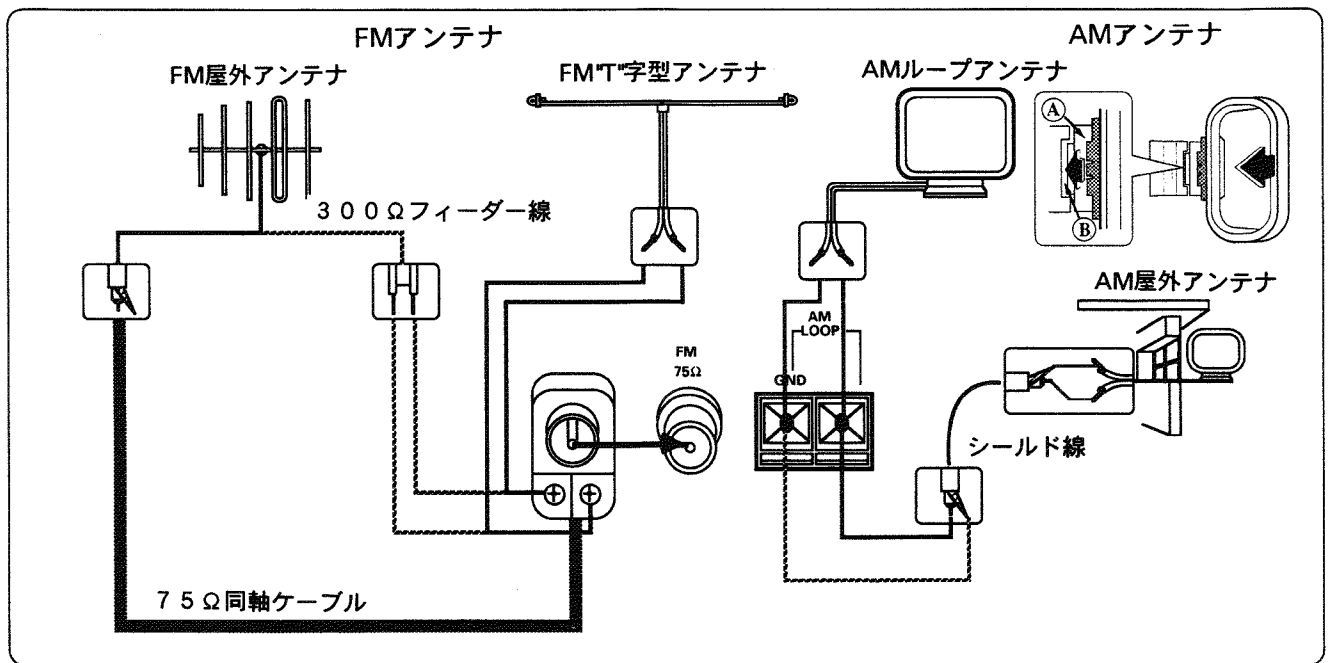


本機の動作に異常を感じたとき

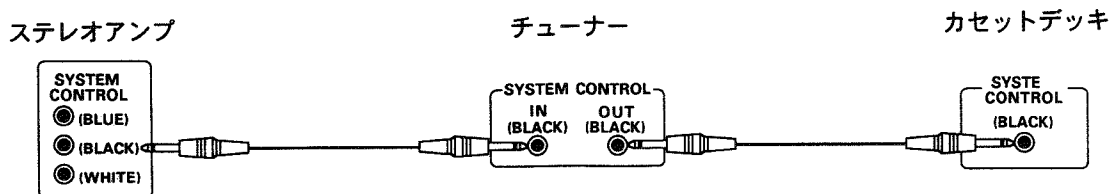
本機から異常な音や臭い、煙などが出たときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、お買い上になった販売店または最寄りの当社サービス窓口(サービスネットワーク参照)にご連絡ください。

そのまま使用すると故障の範囲が広がったり火災や感電の原因になる恐れがあり、大変危険です。

接続について



システムコントロール端子について
 将来のシステムコントロール端子付きステレオアンプやカセットデッキとシステムコントロール用ミニプラグコードで接続します。



接続について

接続上の注意

- * 接続の際は、接続する装置（アンプなど）の電源を切ってから行ってください。
- * ピンプラグコードは、しっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音発生の原因になります。
- * 接続したアンテナの引き込み線が他の部分に接触していたり接続が不完全ですと受信不良や雑音発生の原因になります。

ステレオアンプとの接続

OUTPUT端子とステレオアンプのチューナー(TUNER)端子を付属のピンプラグコードで接続します。左右のチャンネルを確かめて、正しく(LとL,RとR)接続してください。また、電源プラグをアンプのACコンセント(SWITCHED)に差し込んでおくとう便利です。

AM用ループアンテナの接続

付属のAMループアンテナは図のように(AをBに差し込む)組立て、コードを本機背面のループアンテナ (AM LOOP) 端子に接続し、受信が良好になる位置や向きに設置します。

- * ループアンテナを取りはずすとAM放送が受信できなくなります。
- * ループアンテナに電源コードやスピーカーコードを近づけないでください。雑音の原因になります。

AMステレオ放送を良好な状態で聞くために

鉄筋のビル内などで、受信状況が悪い場合にはAMループアンテナに延長ケーブルを追加接続してAMループアンテナを窓際に置くと良好な受信ができます。この際、延長ケーブルにはオーディオ用ピンプラグコードに使われている市販のシールド線を使用するとより効果的です。

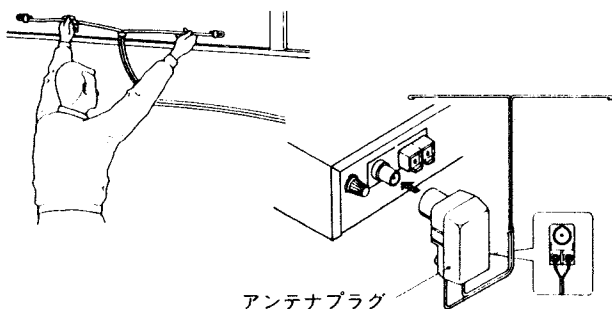
- * シールド線の外被アミ線側は本機背面のループアンテナ (AM LOOP) 端子のグランド (GND) 端子側へ接続します。

FM用T字型アンテナの接続

付属のT字型アンテナとアンテナプラグを図の様に接続し、両端をT字型に広げて放送を聞きながら受信が最良になるようにアンテナの方向をきめ、天井や壁に両端を固定してください。

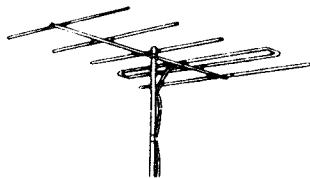
水平に張った位置が低い場合は人が通るたびに受信が不安定になる場合があります。

T字型アンテナはFM屋外アンテナを設置するまでの期間、暫定的にFM放送を受信していただくためのものです。雑音の少ない、より音質の良いFM放送を受信するためにはFM専用の屋外アンテナを設けてください。



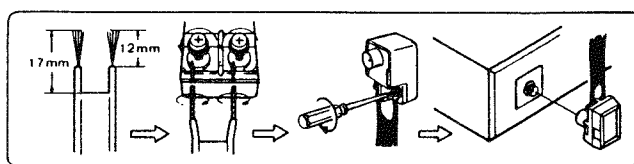
FM屋外アンテナの接続

FM屋外アンテナとチューナーを接続する引き込み線には75Ω同軸ケーブルと300Ωフィーダー線があります。



300Ωフィーダー線と付属のアンテナプラグを使った接続:

フィーダー線の先端を図のように処理してアンテナプラグに接続し、アンテナプラグを本機背面のFMアンテナ端子に差し込みます。

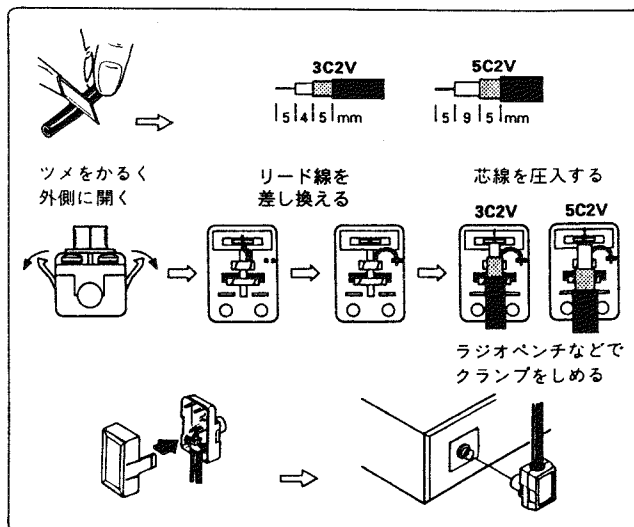


75Ω同軸ケーブルと付属のアンテナプラグを使った接続:

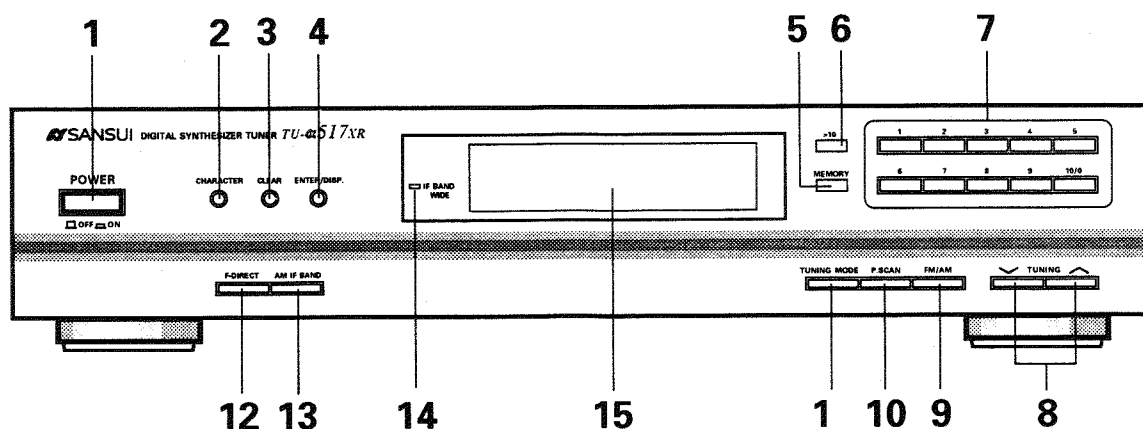
同軸ケーブルの先端を図のように処理してアンテナプラグに接続し、アンテナプラグを本機背面のFMアンテナ端子に差し込みます。

注意

75Ω同軸ケーブルをアンテナプラグに接続してお使いのときは、バルントランスのリード線をスリット(金属)からはずし、ケース内のスリット(樹脂)に差し換えてください。



各部の名称と説明



1 電源スイッチ (POWER)

このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。

2 キャラクタースイッチ (CHARACTER)

このスイッチはステーションコールメモリーシステムによってあらかじめプリセットした放送局に4桁までのキャラクターを入力したいときに押します。

3 クリアスイッチ (CLEAR)

ステーションコールメモリーシステムにおいてキャラクターを取り消したいときキャラクタースイッチを押してこのクリアスイッチを押します。

4 エンター/ディスプレイスイッチ (ENTER/DISP.)

このスイッチは次のような場合に操作します。

1. 放送局をメモリーするとき。
2. ステーションコールメモリーシステムでキャラクターを入力するとき。
3. 本機のディスプレイ(周波数表示とキャラクター表示)を切り換えるとき。

5 メモリースイッチ (MEMORY)

プリセットしたい放送局を受信し、このスイッチを押して、プリセットステーションスイッチでチャンネル番号を指定し、エンター/ディスプレイスイッチを押すと放送局がメモリーされます。

このスイッチを押すとディスプレイに"-CH"と"MEMORY"表示が約10秒間点滅します。

6 プリセットステーションスイッチ (>10)

11~30局を選択するとき、はじめにこのスイッチを押します。

7 プリセットステーションスイッチ (1~10/0)

それぞれのスイッチ(番号)の組み合わせによってFMまたはAM放送を30局までランダムにメモリーさせることができます。また、ダイレクト選局を行う場合は受信周波数を入力するための10キーの働きをします。

8 チューニングスイッチ (▲TUNING▼)

希望する放送局を選局するスイッチです。チューニングモードスイッチを切り換えることによりオート選局とマニュアル選局の2通りの選局が行えます。

オート選局の場合

チューニングスイッチ(▲TUNING▼)の▲側または▼側を押すとオート選局が始まり、放送を受信すると自動的に止ります。

▲側を押すと受信周波数が高くなり、▼側を押すと低くなります。

マニュアル選局の場合

チューニングスイッチ(▲TUNING▼)の▲側を1回押すごとに受信周波数がFMでは0.1MHz、AMでは9kHzづつ高くなり▲側を押し続けると受信周波数が高くなり続け、指を離すと止ります。

▼側を1回押すごとに受信周波数がFMでは0.1MHz、AMでは9kHzづつ低くなり▼側を押し続けると受信周波数が低くなり続け、指を離すと止ります。

9 バンド切り換えスイッチ (FM/AM)

お聞きになる放送(FM、AM)を選びます。このスイッチを押すたびに"FM"と"AM"に切り換わりディスプレイに"FM"または"AM"と表示されます。

*このスイッチを押すとチューニングモードがオート選局にセットされます。

各部の名称と説明

10 プリセットスキャンスイッチ (P.SCAN)

このスイッチを押すと、プリセットされた放送局を自動的に約4秒間ずつ受信します。

お聞きになりたい放送が受信されたときは、プリセットスキャンスイッチをもう一度押すか、バンド切り換えスイッチを押します。

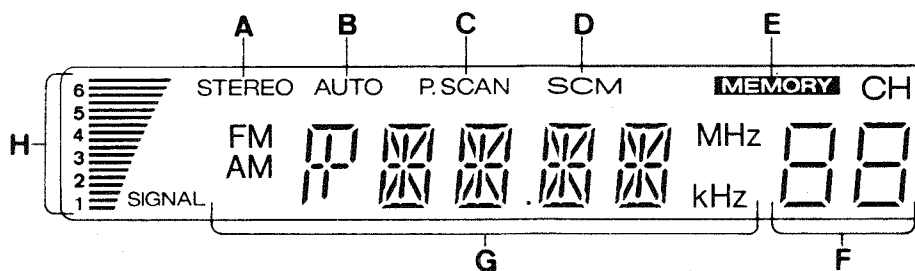
11 チューニングモードスイッチ (TUNING MODE)

FM放送やAM放送を受信するときの選局モードを選択するためのスイッチです。押すたびにオート選局とマニュアル選局に切り換わりオート選局のときはディスプレイに"AUTO"インジケータが点灯します。

また、このスイッチはステレオ受信とモノラル受信の切り換えもかねており、オート選局のときはステレオ受信に、マニュアル選局のときはモノラル受信になります。

15 ディスプレイ

受信周波数、プリセットメモリーチャンネルやインジケータにより動作状態を表示します。また、ステーションコールメモリーシステムにより、4桁までのキャラクターを表示します。



A: ステレオインジケータ (STEREO)

チューニングモードスイッチがオート選局にセットされているとき ("AUTO"インジケータ点灯時) ステレオ放送を受信すると、このインジケータが点灯してステレオ放送であることを示します。チューニングモードスイッチがマニュアル選局にセットされているとき ("AUTO"インジケータ消灯時) は点灯しません。

B: オートインジケータ (AUTO)

チューニングモードスイッチがオート選局にセットされているとき点灯します。

C: プリセットスキャンインジケータ (P.SCAN)

プリセットスキャンスイッチを押してプリセットスキャン中は点灯します。

12. フレクシーダイレクトスイッチ (F-DIRECT)

このスイッチを押すと受信周波数表示が"---"になり約10秒間点滅します。この間にプリセットステーションスイッチの10キーを使って希望する放送局の周波数を設定します。

13 AM IF BAND切り換えスイッチ

AM放送受信時の中間周波数帯域をワイドとナローに切り換えるスイッチです。ワイドにセットすると"IF BAND WIDE"インジケータが点灯します。

AM放送の受信状況が良好な場合にはワイドにセットすると良好なステレオ感が得られます。

14 IF BAND WIDEインジケータ

AM IF BAND 切り換えスイッチを操作してワイドにセットすると点灯します。

D: ステーションコールメモリーインジケータ (SCM)

プリセットメモリーしたチャンネルにステーションコールメモリーシステムによってキャラクターが入力されているとき点灯します。

E: メモリーインジケータ (MEMORY)

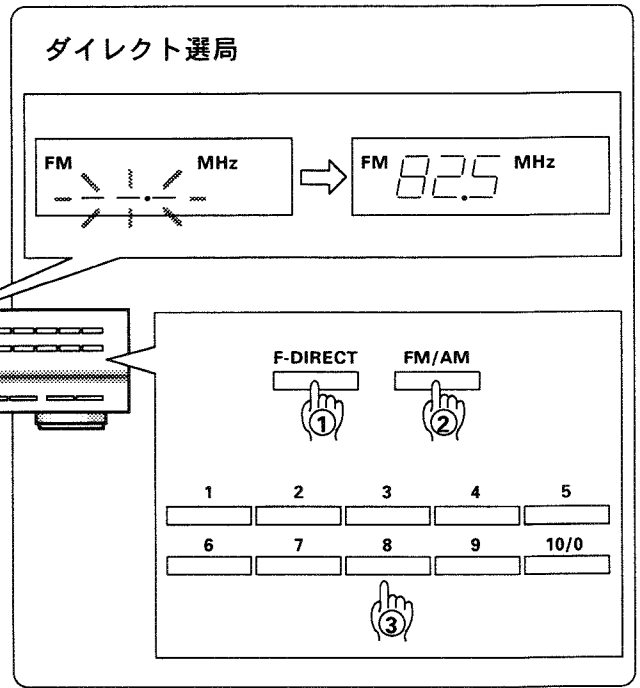
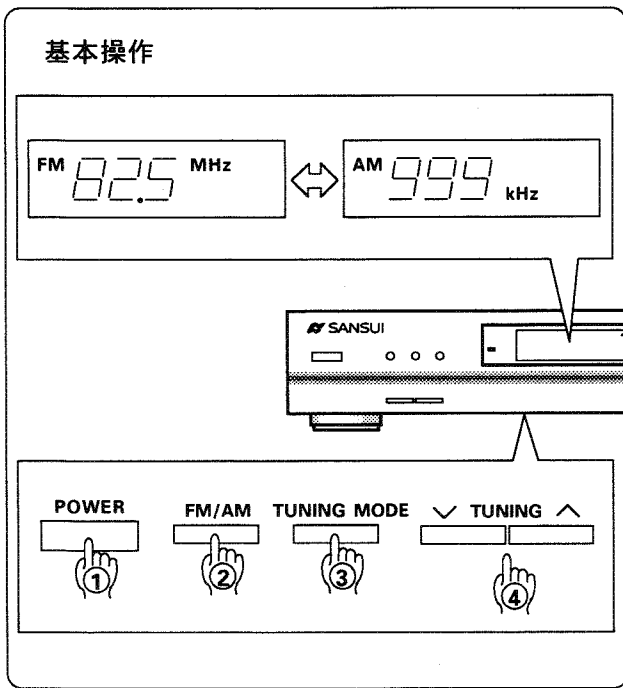
メモリースイッチ (MEMORY) を押すと"-CH"表示とともに約10秒間このメモリーインジケータが点滅します。

F: プリセットチャンネル表示

1~30局までのプリセットメモリーされた放送局を、プリセットステーションスイッチ押して呼び出すと、そのチャンネル番号を表示します。また、スキャン中は点滅します。

G: シグナルインジケータ

アンテナが受けている電波の強さに応じてこのインジケータが下から上に点灯し、電波の入力レベルを示します。



基本操作

- 1 パワースイッチを押して電源を入れます。
- 2 バンド切り換えスイッチ (FM/AM) で希望する放送バンド (FM, AM) を選びます。
スイッチを押すたびに放送バンドが切り換わりディスプレイに"FM"または"AM"の表示がでます。
- 3 チューニングモードスイッチを操作してオート選局またはマニュアル選局にセットします。
- 4 チューニングスイッチを押して放送局に同調させます。
▲側を押すと受信周波数が高くなり、▼側を押すと低くなります。

オート選局の場合

チューニングスイッチ (▲TUNING▼) の▲側または▼側を押すと自動的に選局が始まり同調すると止まります。

マニュアル選局の場合

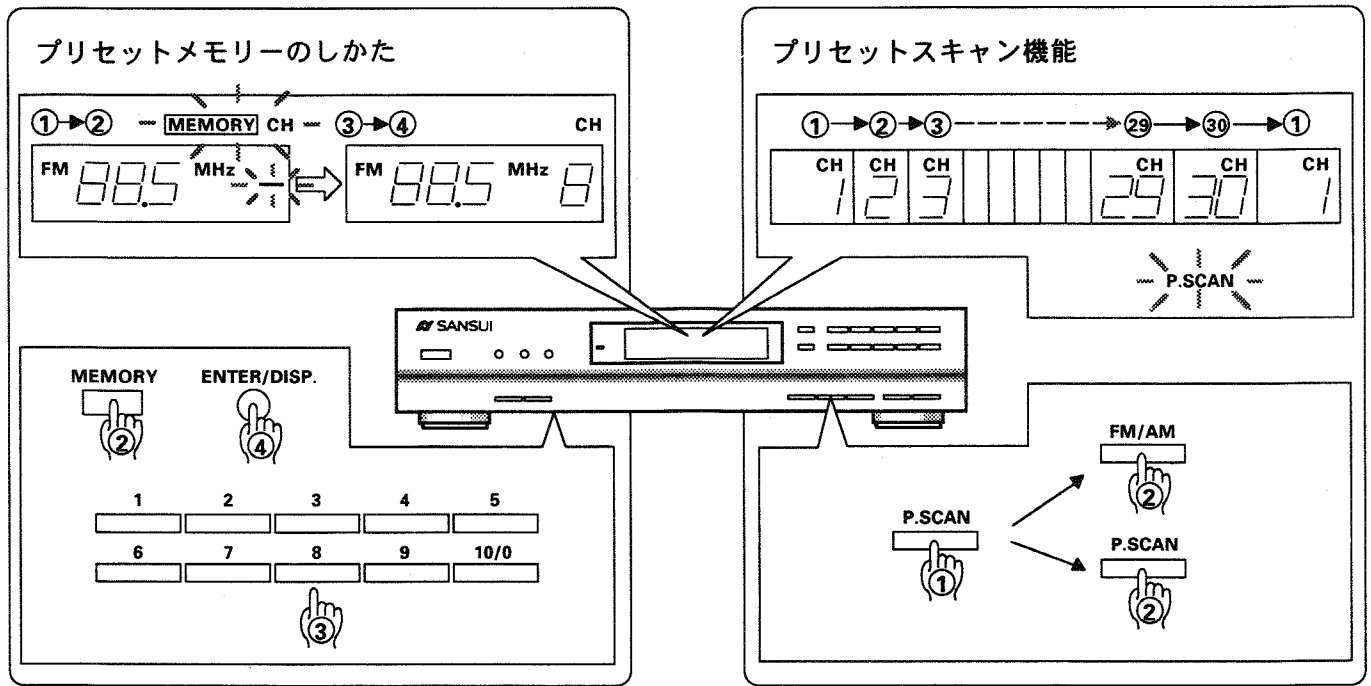
チューニングスイッチ (▲TUNING▼) の▲側または▼側を押し続け、希望の放送局の周波数に近づいたら、1回ずつ押して正確な周波数に合わせます。

- 5 アンプで音量や音質を調整し、放送をお楽しみください。
- * 電波の弱い放送局はオート選局できない場合があります。そのときはマニュアル選局を行ってください。
マニュアル選局ではモノラル受信になります。

ダイレクト選局

フレクシーダイレクトスイッチ (F-DIRECT) をご利用になると希望する放送局を、直接、呼び出すことができます。

1. フレクシーダイレクトスイッチ (F-DIRECT) を押します。周波数表示が"---"になり約10秒間点滅します。
 2. お聞きになる放送 (FM, AM) に応じてバンド切り換えスイッチで"FM"または"AM"にセットします。
 3. 希望する放送局の周波数を新聞などでおしらべになり、周波数に該当する番号のプリセットステーションスイッチを順に押します。
設定した希望周波数がディスプレイに表示され放送が受信されます。
- * フレクシーダイレクト操作では各操作において約10秒間過ぎると前の受信モードに戻ります。



プリセットメモリーのしかた

よく聞きになる放送局の周波数をあらかじめプリセットステーションスイッチに記憶させておくと、希望の放送局を簡単に呼び出すことができます。

1. 基本操作の1～4手順に従ってプリセットメモリーする放送局を受信します。
 2. メモリースイッチを押して10秒以内にプリセットステーションスイッチを押し、4秒以内にエンター/ディスプレイスイッチを押すとそのチャンネル番号がディスプレイに表示され周波数がメモリーされます。
11局以上のときは、はじめに>10スイッチを押します。
 3. 同様の手順でFMまたはAMを30局までランダムにプリセットすることができます。
- * 31局以上のリセットメモリーはできません。

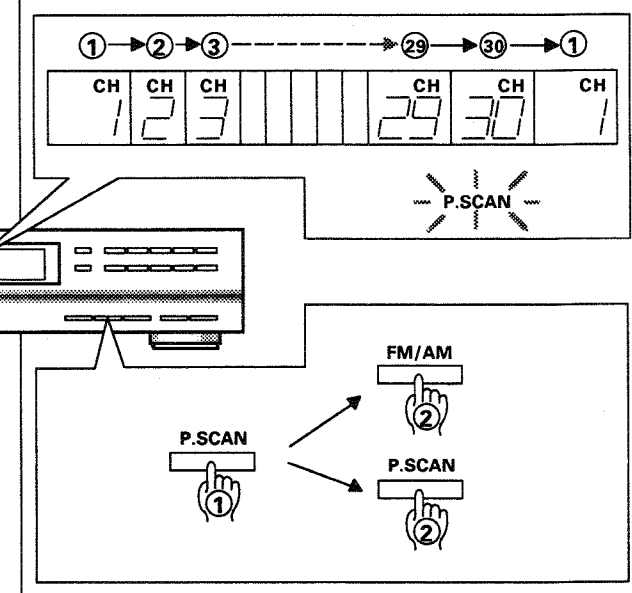
プリセットした放送局を呼び出すには

プリセットステーションスイッチを使って希望するチャンネル番号を入力します。

入力したチャンネル番号と周波数がディスプレイに表示され、放送を受信されます。

- * 1度プリセットしたチャンネル番号に別の放送局をプリセットすると前にプリセットした放送局は消えます。
- * 電源を切る前に聞いていた放送局を記憶するラストステーションメモリー機能により、再び電源を入れると前に聞いていた放送局を自動的に受信します。

プリセットスキャン機能



プリセットスキャン機能

プリセットステーションスイッチの1～30にメモリーした放送局をワンタッチで次々に聞ける便利な機能です。放送の受信中にプリセットスキャンスイッチ (P.SCAN) を押し、ディスプレイの"P.SCAN"インジケーターが点灯し、チャンネル表示が順に約4秒ずつ点滅しながら、それぞれのプリセットメモリーされた放送を自動的に聞くことができます。

希望する放送を受信されたらプリセットスキャンスイッチ (P.SCAN) または、バンド切り換えスイッチを押します。スキャン動作が解除され、その放送を聞くことができます。

* FM放送受信中はFMのスキャンを、AM放送受信中はAMのスキャンをそれぞれ行います。

ご注意

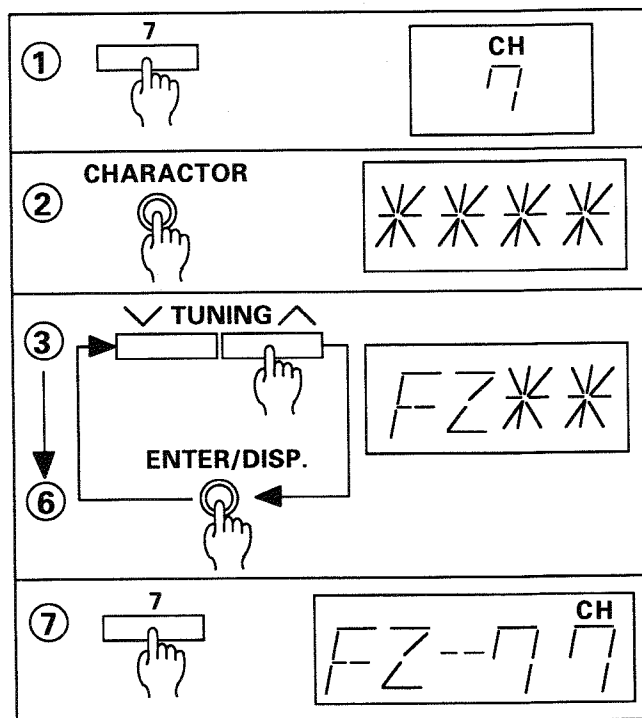
このチューナーには、ステーションメモリー機能、ラストステーションメモリー機能の両機能をもっております。通常、約1週間はメモリー機能を保持します。(温度や湿度により異なります)が、それ以上電源を入れずにおきますと、メモリーした放送局が消えてしまいます。また、ラストステーションメモリー機能も働きません。長期間放送を聞かない場合でも、ときどきチューナーの電源を入れてください。メモリー機能が継続されます。

ステーションコールメモリーシステム

ステーションコールメモリーシステムとは、プリセットした放送局に4文字までのキャラクター(文字, 数字, 記号)を使って名称をつけ, 周波数表示のかわりに名称で表示が行える機能です。

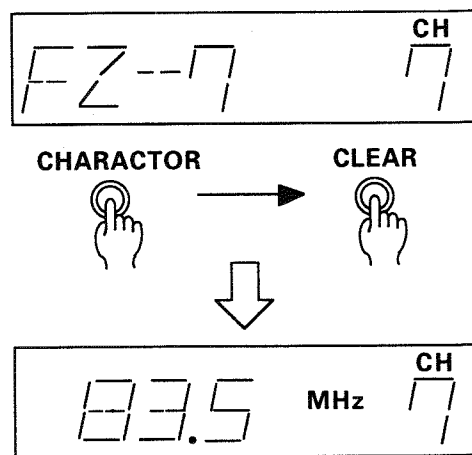
操作例: 7CHにメモリーした放送局に"FZ-7"と名称をつける場合

1. あらかじめプリセットステーションスイッチで7CHを呼び出しておきます。
2. キャラクタースイッチを押します。
"****"表示が出て, いちばん左の桁の"*"マークが点滅します。
3. チューニングスイッチの^側を押すごとに"ABC..."と変化しますので"F"表示にしてエンター/ディスプレイスイッチを押します。
4. 左から2桁目が点滅しますので^側を押して"Z"表示にしてエンター/ディスプレイスイッチを押します。
5. 左から3桁目が点滅します。v側を押すごとに"=></"と記号が出て, 次に"-"が出ます。行き過ぎた場合は^側を押して"-"表示にしてエンター/ディスプレイスイッチを押します。
6. いちばん右の桁が点滅します。v側を押して"7"表示にしてエンター/ディスプレイスイッチを押すと設定が終了します。
7. 他のプリセットチャンネルから7CHに切り換えると"FZ-7" "CH7"と表示されます。



名称表示の取り消し

名称表示が出ているときにキャラクタースイッチを押してからクリアスイッチを押すと, そのプリセットチャンネルに入力されていたキャラクターは全て消去されます。



ブランクの使用について

"ABC"など3桁以下の表示では, ブランクを入れる必要があります。ブランクは"▽"記号と数字"0"の間にありますので^側またはv側を押してこの部分をさがし(無表示になる), エンター/ディスプレイスイッチを押してください。

受信周波数の確認

ステーションコールメモリーシステムではキャラクター表示が優先されます。受信周波数を確認する場合はエンター/ディスプレイスイッチを押すと約4秒間周波数が表示されます。

使用可能なキャラクター(文字, 数字, 記号) 次のキャラクターが使用できます。"0"の前はブランクとして使用します。各種の文字, 数字, 記号を色々と組み合わせてください。

ABCDEF GHIJKL MNOP
 QRSTUVWXYZ \ / 0 1
 0 123456789+-</>=

本機のお手入れ

パネルやケースは、ときどき柔らかい布でからぶきしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどの化学薬品を使用すると表面が侵され、文字が消えたり、外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤などもかからないようご注意ください。

サービスの依頼

確認しても正常に戻らず、本機の故障と考えられる場合は電源プラグをコンセントから抜き、お買い上になった販売店または最寄りの当社サービス窓口（別添サービスネットワーク）にご連絡ください。（購入して1年以内の場合は、保証書を提示してください。）

●お名前、住所、連絡先電話番号

●型名.....デジタルシンセサイザー、チューナー：

TU-@517XR

●故障の内容.....できるだけ詳しくお知らせください。

●お買い上げ年月日.....○年○月○日

●ご自宅までの道順と目標／ご希望訪問日

山水電気株式会社

〒168 東京都杉並区和泉2-14-1

Printed in Japan (63SACR1) <19090900>